

吸実性カメムシ類情報第1号（ダイズ）

令和6年9月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ダイズほ場での発生量はやや多い状況です

1 発生状況

8月下旬に県内9地点18ほ場（ダイズ）で行った巡回調査において、吸実性カメムシ類の発生量は100株あたり平均0.22頭（平年0.34頭、前年1.00頭）と過去10年間と比較して3番目に多い状況でした。

また、8月下旬の水田における調査では、吸実性カメムシ類の1種であるミナミアオカメムシ（図）の発生量がやや多い状況でした。今後、水稻収穫済みの水田から近隣のダイズほ場へ移動する可能性があるため、注意が必要です。

2 吸実性カメムシ類について

主な種はミナミアオカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ等です。

吸実性カメムシ類はダイズの子実を吸汁加害し、その被害はダイズの生育ステージにより異なります。

莢伸長初期から子実肥大初期の被害としては、莢の発育不全による落下や、子実が肥大しない板莢の発生等があります。

子実肥大中期以降の被害は、奇形粒、変色粒であり、品質の低下につながります。

また、吸実性カメムシ類による加害が著しい場合、子実への養分の転流が進まないため、莖葉が緑のまま落葉しない「青立ち」を引き起こすことがあります。



図 ミナミアオカメムシ

3 防除対策

表を参考に子実肥大初期（開花30～40日後）に防除を行いましょ。その後も発生が続くようであれば、7～10日後に再度防除を行いましょ。

表 だいの吸実性カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	IRACコード
トレボン乳剤	収穫14日前まで	散布	2回以内	3A
キラップフロアブル	収穫7日前まで	散布、 無人ヘリコプターによる散布	2回以内	2B
スタークル液剤10	収穫7日前まで	散布、 無人航空機による散布 空中散布	2回以内	4A
アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	収穫7日前まで	散布		

使用回数は同一成分の剤を含む成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示し、詳細は、

https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。